

親子でいっしょにあそぼう

☆0歳児のころ

- * 赤ちゃんは目を覚ましているときは、いつでも遊んでいます。遊びの中で、指を使い、手足を使い、さらに全身を使って運動能力が発達していきます。いろいろな運動は神経や大脳を刺激して、心身の発育もうながします。
- * 遊びは、見る、聞く、触る、嗅ぐ、感じるといった感覚を養い、脳や神経のはたらきを高め、豊かな感情を育む手助けをします。昼間、楽しく遊ぶことで、夜はぐっすり眠り、生活リズムができやすくなります。
- * 月齢が小さい赤ちゃん遊ぶときは、視線を合わせて、顔をしっかり見ること、そして、抱っこしたり、さすったりして、赤ちゃんの体にふれることが大切です。

赤ちゃんは、ママやパパの声と温もりで安心感につつまれます。生活の中でいっぱい声をかけましょう。ハイハイやたっちができ、自由に移動できるようになると、外の世界に目が向くようになり、好奇心でいっぱいになります。「自分でやりたい」気持ちが芽生えてくるので、赤ちゃんができる遊びを取り入れましょう。「できたね」というまなざしと共に喜ぶことで、やる気を育てていきます。

☆1歳児のころ

- * 一緒に遊ぶことは大事ですが、一人遊びを始める時期です。その時には邪魔をしないで、ゆったりと見守ってあげるのも大事です。
- * お母さんにべったりで離れられない子もいます。無理に遊ばせようとしないで、他の子が遊んでいる姿をみせたりしながら、その傍で一緒に遊んだりしましょう。
- * 大人の行動をよく観察し、上手にまねができるようになり、日々の生活体験が遊びにもつながっていきます。

☆2歳児のころ

- * 積み木を並べて、電車に見立てるなどの「みたて遊び」や自分がそのものになったつもりの「つもり遊び」を楽しむようになります。こういった遊びはイメージを膨らませる「想像力」と、なにかを作ってみようとする「創造力」を育みます。
- * 子どもがイメージした世界で大人も一緒に遊びましょう。子どものイメージの世界が広がります。
- * 遊びは高価なおもちゃばかりでなく、親子で考えながら、家庭にある身近なものでオリジナルのおもちゃを作って遊ぶのも楽しいですよ。

<ママ・パパにおねがい>

- ① 語りかけやスキンシップを心がけて
- ② 反応を見ながら遊んで
- ③ たくさんほめて
- ④ 安全面の確認はしっかりと
- ⑤ ママもパパもいっしょに楽しんで
- ⑥ 余裕があれば、子どもが納得いくまでつきあって

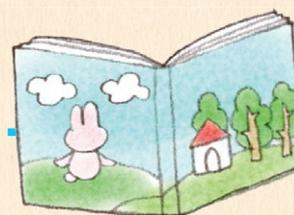


親子で楽しむ 絵本の読み聞かせ

赤ちゃんは生まれた時から言葉にとっても敏感です。心地良いリズム感を、そのまま詩のように感じとります。

大好きなママやパパの優しい声を聞きながら絵本を読んでもらう時間は至福の時。豊かな感情を育み、情緒豊かな子に育ちます。

親子で心のふれあいを楽しみましょう。





ねんねのころ

歌ったり、体をさすったり、声かけが大切です。
音の出るおもちゃも効果的です。

なにかなあ〜?

オルゴールメリーやモビールを吊ったり、ガラガラなど音の出るおもちゃで遊びましょう。



おすわり・ハイハイのころ

まわりのことをよく理解できるようになり、遊びの幅も広がります。

積み木をカチカチ

両手に積み木を持たせ、カチカチと打ち鳴らし、「カチカチ音がするね〜」と語りかけましょう。赤ちゃんアイコンタクトをとることも大切です。



たっち・あんよのころ

「自分でやりたい!」意思を尊重しましょう。

どうぞ ちょうだい

おもちゃを「どうぞ」で赤ちゃんに手渡し、「ちょうだい」で返してもらいます。

最初はなかなか返してくれないかもしれませんが、返してくれたら「ありがとう」と喜んでみましょう。

引っぱりっこでかくらべ

タオルの片方の端を持ち、もう片方の端を赤ちゃんに持たせ「引っぱれ、引っぱれ〜」と声をかけて引っぱりっこ。

赤ちゃんが勢いで後ろにひっくり返らないように注意しましょう。



家庭用品での手軽な遊び

たいこ ポンポコ

からの はこを
たたいて みたら、
どんな おとが
するのかな。



しんぶんボール

やぶいた しんぶんを まるめたら、
ほらね、 ボールのできあがり。

ころころころ。
ボールが ころがるよ!





話し合ってみましょう

自分が子どもだったころ、どんな遊びが大好きでしたか。



わらべ歌や手遊びをいっしょにしましょう

いっしょに歌ったり、手遊びをしてみましょう。



※ 遊びが広がると事故や誤飲が起こりやすくなります。
事故を未然に防ぐために、以下の施設をご活用ください。

「京(みやこ)あんしんこども館」

場所：中京区釜座通丸太町上る梅屋町174-3 電話：231-8002(代表)